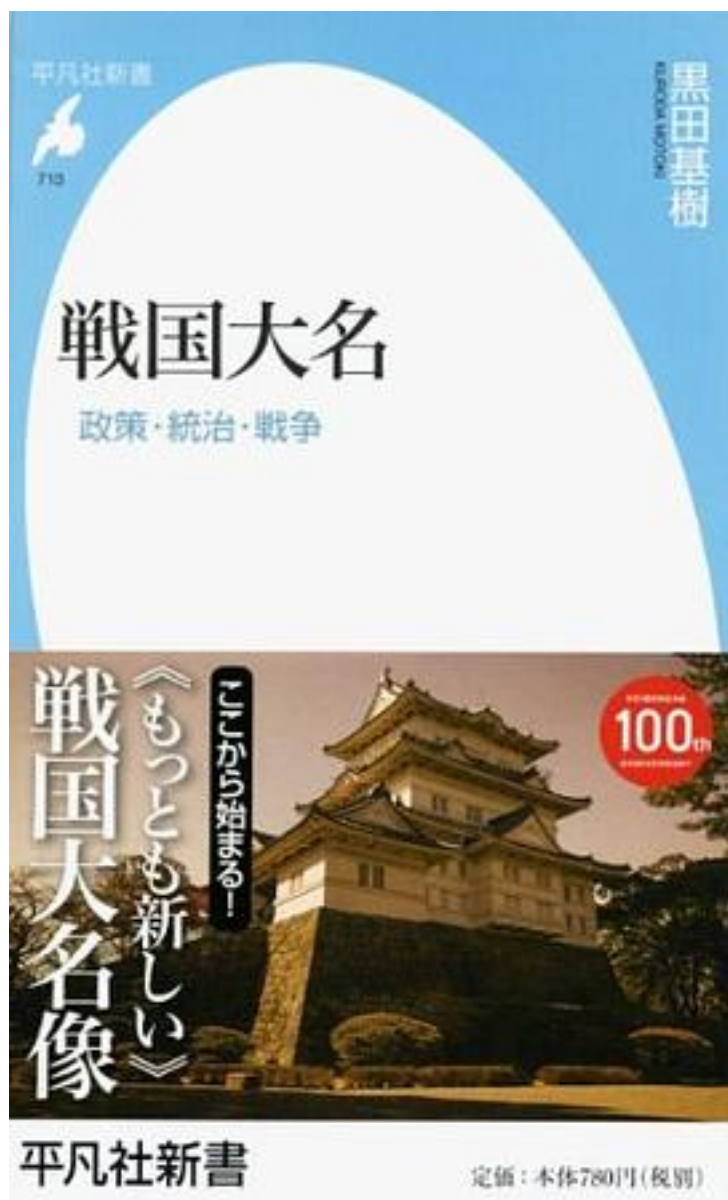


戦国大名 政策・統治・戦争



[戦国大名 政策・統治・戦争_ダウンロード1](#)

著者:黒田基樹

出版者:平凡社新書

出版时间:2014-1-17

装帧:新書

飢饉と紛争が相次いだ戦国時代、戦国大名はどのように生まれ、地域国家の秩序を成立させたのか。大名家と家臣団の在り方から戦争にいたる背景まで、領国経営に必要な要素を検証する。また江戸時代へと向かう中での大名の変容をも視野に入れ、その統治構造をわかりやすく解説する。

作者介绍:

黒田基樹（クロダモトキ）

1965年生まれ。早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修卒業。博士（日本史学）。専門は日本中世史。現在、駿河台大学教授（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

目録: 序章 戦国大名の概念

戦国大名とは／「自分の力量」による領国支配／「給人も百姓も成り立ち候様に」／国境の展開と「御国」観念の成立

第一章 戦国大名の家臣団構造

「北条家所領役帳」の世界／家臣団の階層構成／寄親寄子制の特徴／御恩と奉公／家臣化する百姓／在村被官をめぐる矛盾／被官化をめぐる矛盾

第二章 戦国大名の税制

大名の課税と領主の課税／戦国大名検地の性格／北条氏の検地と棟別改／大名と村の駆け引き／大名と村との契約／大名の「国役」／年貢と公事の納入方法／滞納分の処理方法／統一的税制の構築／臨時の普請役

第三章 戦国大名の流通政策

過書と伝馬手形／変わる関所の性格／大名による出入国管理／領国をまたぐ流通／荷留めと道留め／宿と市／楽市と楽座／撰銭の対策／徳政と人返し

第四章 戦国大名の行政機構

地域支配の構造／領域支配者の階層性／徴税の仕組み／村役人制の展開／目安制と裁判制度／分国法の意義

第五章 戦国大名と国衆

国衆とは／「家中」か「味方」か／従属関係の在り方／両者を仲介する取次／遠方に在番する国衆／大名に依存する国衆

第六章 戦国大名の戦争

戦国大名の戦争の背景／村の戦争参加／村の武力の内実／土豪屋敷も防衛拠点／領国中枢地域での変化／境目の戦場と半手／地域が平和領域を創造

終章 戦国大名から近世大名へ

信長・秀吉の評価／織豊期のとらえ方／戦争を前提としない権力へ

主要参考文献

・ ・ ・ ・ ・ [\(收起\)](#)

[戦国大名 政策・統治・戦争_ダウンロード1](#)

标签

日本史

日本战国

日本历史

戦国時代

戦国

战争史

感兴趣

评论

整本书的内容都是非常好的历史背景材料，尤其是税收和交通那一段，确实有很多我之前没有看过的资料。作者也是日本中世史研究者，总而言之，有兴趣深入了解的，还是非常推荐这本书的。

[戦国大名 政策・統治・戦争 下载链接1](#)

书评

[戦国大名 政策・統治・戦争 下载链接1](#)